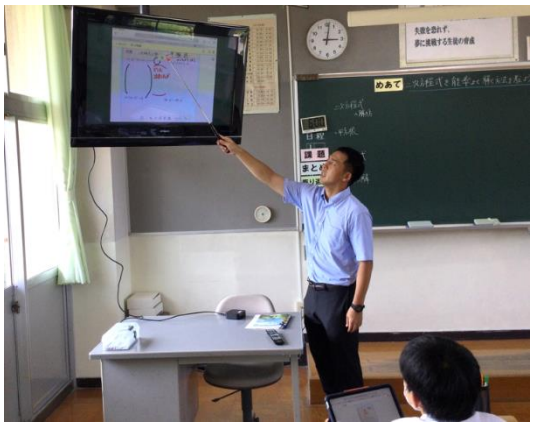
令和７年７月８日（火曜日）

豊後高田市立河内中学校　長岡　範先生の授業です。

授業の単元は、第３学年「二次方程式」。因数分解による解き方、平方根の考え方を使った解き方、解の公式を使った解き方といった既習の考え方を使って、いろいろな二次方程式を解く手順について考察することを通して、より効率の良い解法を考える場面でした。

学習者用ＩＣＴ端末の学習支援ツールを用いて、前時までの板書写真の共有を図り、生徒が既習の内容を振り返ることができるようにするなど、問題解決に向けた見通しをもてるような工夫がなされていました。

二次方程式 $x^2+2x=0$ の解法について生徒が発表する場面で、生徒からの「同じ文字でくくります」という発言に対して、「同じ文字とは？」と問い返し、共通因数という言葉を引き出すなど、数学的な表現を用いて説明するように促していました。

中学校数学科の目標にもあるように、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力の育成が求められています。生徒が自ら数学的な表現を用いて説明することができるようになるためには、授業等を通して、言葉や数、式、図、表、グラフなどの様々な表現を用いて説明する経験を積み重ねることが必要です。今後も取組を続け、生徒の資質・能力の育成に努めてくれることを願っています。